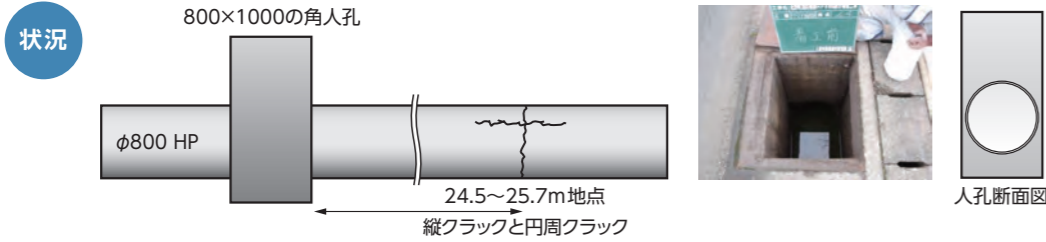


大口径補修 (熱硬化)・ます補修 (熱硬化)

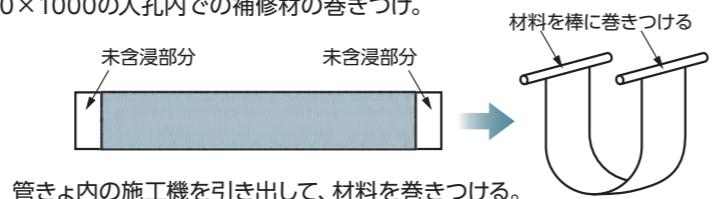
1 大口径補修 (熱硬化) … 狭い人孔からの施工実例

大口径 φ800 標準Ⅲ (BM 7セット)

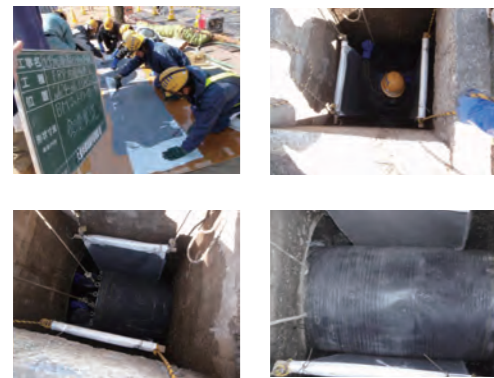


※施工時の大きな問題は、800×1000の人孔内での補修材の巻きつけ。

施工方法 人孔内で施工機を組み立て、管きょ内に挿入し、人孔内での作業スペースの確保。材料の含浸時に、両端に未含浸の部分を作り、棒に巻きつけて、掛け軸状にして、人孔内に垂らす。



施工機の上に作業者が立って巻き付け作業を行った。材料の両端を引っ張り上げて、施工機に密着させ、片側ずつ巻きつけて、未含浸部分をハサミで切断。



材料を垂らして、施工機を移動



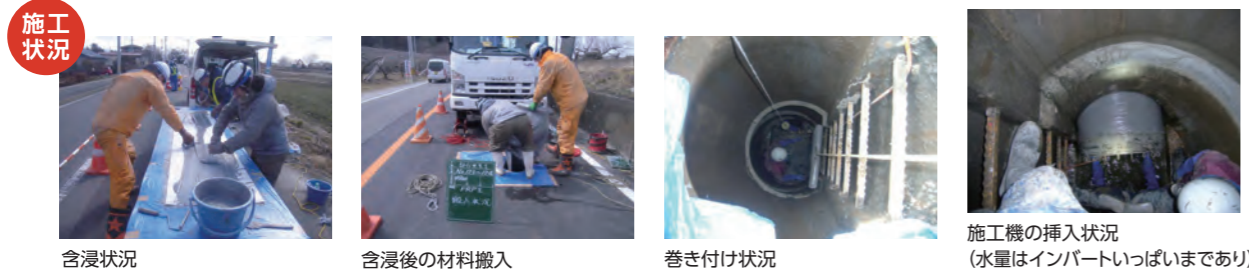
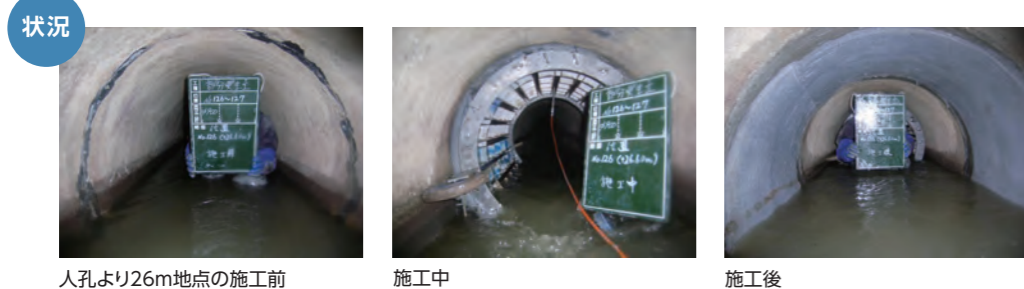
巻き付け完了→施工位置に移動させて補修を行う



施工後重ね張り

2 大口径補修 (熱硬化) … 水量の多い箇所の施工実例

大口径 φ900 標準Ⅰ



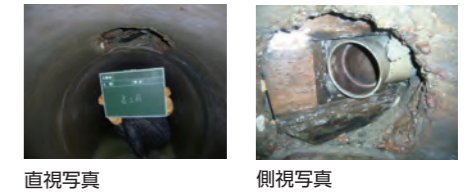
含浸状況 含浸後の材料搬入 巻き付け状況 施工機の挿入状況 (水量はインパートいっぱいまであり)

3 大口径補修 (熱硬化) … 道路陥没対策の施工実例

大口径 φ1100 標準Ⅰ

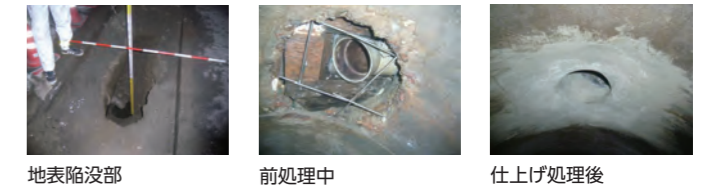
状況 管体上部の取付管の接続不良による道路陥没の対策。

施工現場は、水量が多く、夜間の4時間程度の時間制約あり。夜間においても水量が多いため、施工時には、土嚢を積み、6インチポンプにて水替えを行ないながらの施工となった。

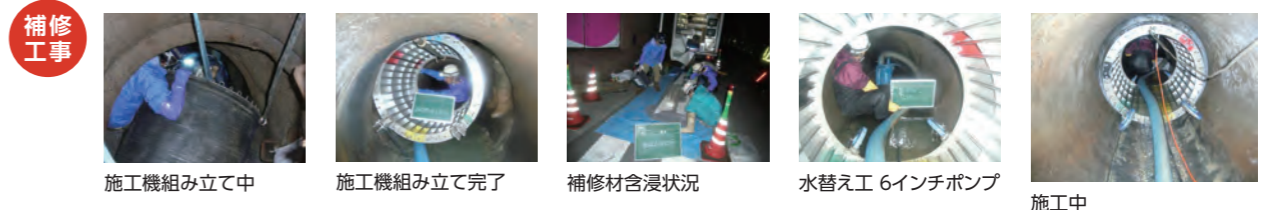


直視写真 側視写真

施工方法 地上部の開削工事を行ない、陥没部分の補修工事を行なう。管きょ内については、前処理で、管口部分の処理を行なう。



地表陥没部 前処理中 仕上げ処理後



施工機組み立て中 施工機組み立て完了 補修材含浸状況 水替え工 6インチポンプ 施工中

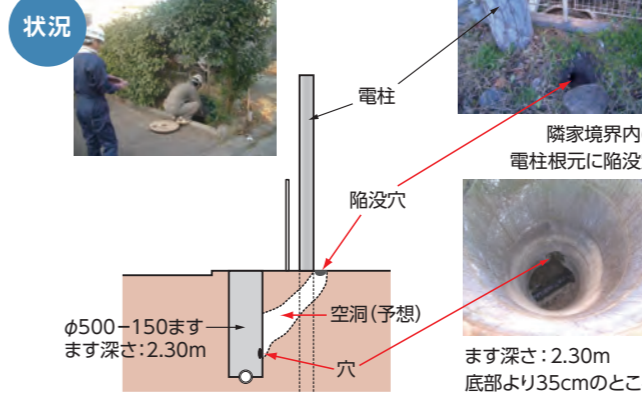
仕上げ工 水量が多いため、土嚢で堰を作り、6インチポンプで排水。



取付管管口削孔状況 施工後側視 施工後直視 施工後

4 ます補修 (熱硬化) … 深いますの施工実例

φ500-150 ます補修



施工方法 ます補修の施工後に本管施工機を使用して穴の部分に標準Ⅱ材料にて補修、補修後に軽量モルタルを陥没穴より流入させて、空洞を埋めた。



ます底部補修後 ます上部補修後

その他のます補修実例

φ500-150 ます …マルチンパートタイプ



施工前 施工後 2m³入った